

令和7年度第1回総合教育会議

日時：2025/10/01 09:12～10:30

場所：文化センター2階 研修室

出席者：柴崎町長、山口教育長、萩原職務代理、石田委員、八高委員、河合委員、小林総務課長、米沢局長、田子教育総務室長、井堀学校教育室長、廣橋生涯学習室長

作成者：教育総務室 岸

発言者	発言内容 (AIを活用した要点筆記)
小林総務課長	ただ今から令和7年第1回総合教育会議を開催する。 初めに柴崎町長から挨拶申し上げる。
柴崎町長	総合教育会議に出席いただき感謝申し上げる。 本日8時30分に町長室にて、再任の山口教育長と新任の河合委員に辞令を交付した。また先ほどの臨時教育委員会では、萩原委員が教育長職務代理者に指名されたとの報告がなされたとのことである。町としても新体制の教育委員と連携して教育行政の発展に尽力するので協力をお願いしたい。
小林総務課長	続いて、山口教育長から挨拶申し上げる。
山口教育長	この総合教育会議の設置の発端として、大津市の生徒自殺をめぐり教育委員会の対応が不十分で、市長部局が関与できなかったことが大きな問題だったというのが私の認識である。この反省を受け、総合教育会議が子どもの生命・身体の保護や損なわれる恐れがある場合に講ずべき措置についての協議や調整を行う場と位置付けられた。 この会議では町長部局が事前に提案・準備を行い、教育委員から意見を聞く場となる。年1回の貴重な機会として忌たんのない意見を出してほしい。
小林総務課長	では、議事に入る。 議事の進行は、吉岡町総合教育会議設置要綱第4条第1項に基づき、議長である柴崎町長にお願いする。
柴崎町長	では、皆さんには、議事の円滑な進行と率直な意見交換をお願いしたい。 本日の議題は、「吉岡町教育大綱及び吉岡町教育委員会教育行政方針に基づく取り組みの現状と今後の方向性について」である。 これからの進行は、小林総務課長にお願いする。
小林総務課長	本日からの新任教育委員もいるため、まず総合教育会議の目的と教育行政に関わる各種計画等の位置付けを確認する。 主な内容： <ul style="list-style-type: none">- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成27年施行）により全地方公共団体に「総合教育会議」を設置。首長と教育委員会で構成し、教育の基本方針や重点施策、緊急時の対応などの協議・調整を行う。- 「吉岡町教育大綱」は地方公共団体の長が教育委員会と連携して策定する教育、学術及び文化の振興に関する総合的な方針で、現行のものは令和4～8年度を対象に令和4年2月の総合教育会議にて策定された。- 吉岡町教育大綱を具体化したのが第3期「吉岡町教育振興基本計画」で、学校教育・生涯学習等の方向性と施策を示す。大綱と基本計画は5年周期で、単年度は「教育行政方針」として各実施事業を設定（定例教育委員会で次年度方針について議論）している。 現行の大綱及び計画は来年度が最終年度のため、来年度中に次期要綱・計画の検討、策定が必要となる。本日は現行計画の中間評価的な現状と方向性の確認をし、教育振興基本計画で設定した目標等に変化があった点を中心に簡潔な説明を事務局から行い、その後に意見交換を行う。

	まず「基本方針1 学校教育の充実」について、事務局長と学校教育室長から説明をお願いする。
米沢局長	<p>私からは、「学校施設の設備・充実」について説明する。</p> <p>吉岡町は他市町村と異なり児童数が増加しており、国の少子化対策中心の流れとは逆に学校施設が手狭になっている現状。ここ数年で改修や修理などの具体的な整備を進めてきたが、町の財政状況を考慮し、教育委員会としては優先度の高い項目から順に実施していく。将来の出生数や人口動態を踏まえ、普通教室・特別教室など教室数の不足が生じないよう設備計画を進める。校庭も手狭になるため、吉岡中の校庭拡張工事を実施中で、駒寄小についても来年度を目指して対応を進めている。</p> <p>学校給食センターは老朽化により建て替え事業を進行中で、町の協力を得て教育予算を確保しているものの、整備の優先順位付けが大きな課題となっている。</p>
井堀学校教育室長	続いて、「学校運営協議会の充実と地域に開かれた学校づくり」について吉岡町学校運営協議会は年4回開催、委員17名（校長、PTA代表、自治会長、主任児童委員、吉岡会代表、社会福祉協議会、地域学校協働センター活動推進員、教育長職務代理者等）で構成されている。学校運営協議会を充実させて地域に開かれた学校を目指しているが、この協議会の内容や在り方、方向性について後ほど意見交換をお願いしたい。
小林総務課長	次に「基本方針2 生涯学習・社会教育の推進」「基本方針3 文化・スポーツ」について、生涯学習室長から説明をお願いする。
廣橋生涯学習室長	<p>「文化センター施設・設備の改修・改善」の基本計画がある。現在の文化センターは平成8年に開館で経年（29年目）による老朽化が進行。財政制約のため優先順位を決め、必要に応じて都度補修工事を実施している。令和6年度にトイレの洋式化工事を実施。館内のトイレ計33基のうち洋式は18基、図書館側1階女子トイレは全て洋式化済みである。</p> <p>「住民参加の学習講座の開設」について、住民が講師となって企画運営する『よしおか手作り講座』などの住民参画事業を実施している。教えることを通じた生きがいづくりや交流の場を提供し、住民の知識・経験・特技を生涯学習に活かしている。昨年度は13講座を実施。</p> <p>芸術・文化の振興について、芸術文化の保存・活用を掲げ、芸術文化活動の支援を基本計画としている。具体的な取り組みとして町民文化祭の開催や文化協会への活動支援を行っている。</p>
小林総務課長	特に重点的なものを説明してもらった。意見交換に入る前に、資料の内容や見直し状況などについて確認したい点や質問があれば自由に発言してほしい。
八高委員	<p>1つ目、『子ども安全協力の家』の状況について、数が増えているか、協力の家の人の高齢化などの現状を知りたい。</p> <p>2つ目、体育館での各種活動を保障するための冷房設備導入の計画について、現在どの程度進んでいるか。</p>
米沢局長	<p>1つ目の『子ども安全協力の家』は生涯学習室長が回答するので、2つ目の体育館の冷房整備について、近年の猛暑を受け他自治体で冷房導入が進む中、吉岡町でも導入を検討しており、町内の体育館は駒寄小と吉岡中に各1か所、明治小は社会教育施設の体育館で共に教育委員会の管轄である。</p> <p>優先的に吉岡中の体育館へ冷房を設置したいと考えており、文部科学省の補助金を活用して整備を進める方針だが、補助があっても町の財源が必要なため財政当局と調整しながら進める。具体的な事務は来年、再来年から動かす予定で、実際の設置はここ1、2年内は難しいが、準備は始めているという状況である。</p>
廣橋生涯学習室長	1つ目の『子ども安全協力の家』について、現在登録数が110件。毎年広報等に掲載し、協力をお願いしている。また昨年度、高齢により辞退の申出が1件あった。
八高委員	『子ども安全協力の家』は、自分でやりたいといった申出制なのか。

廣橋生涯学習室長	そうである。
八高委員	例えば、何時間在宅していなければならないなどの条件はあるのか。
廣橋生涯学習室長	特別な条件はなく、例えばトイレを貸すなど一時的に協力してくれる人や、不審なことがあったときに駆け込める家として対応してくれる人に協力をお願いしている。
小林総務課長	他にも事業の方向性に関する質問などあればお願ひしたい。
八高委員	保護者としての意見であるが、キャリア教育の充実のところの「キャリアパスポート」の活用方法や、それが具体的にどうキャリアにつながるのかがよく分からぬ。 基本的生活習慣の確立のところに「手洗い」と「手指の消毒」が設定されている点について、消毒は化学薬品やアルコールを使うため、使いたい親と使いたくない親で意見が分かれていること、そして「消毒」とは具体的にどの程度・どのような場面で行うことを想定しているのか（子ども同士で頻繁にスプレーするような運用かどうか）。さらに、消毒が免疫力にどう影響するかといった考え方の違いも保護者間であるため、その意図やニュアンスを知りたい。
井堀学校教育室長	まず「キャリアパスポート」について、県の方針で導入しているもので、キャリア＝職業だけを指すものではなく、低学年から中学校卒業までの学校行事や学習で自分が頑張りたいことや力を入れたいことを蓄積し、高校や将来の自分の長所につなげる（生かす）ための記録ファイルという位置付けである。 消毒については、食中毒防止の観点から給食時（配膳や自分で取りに行く場面など）にしっかり行なうことが重要ということで、日常的に児童同士や教員が児童に消毒を強制するような運用をするようなイメージではない。
八高委員	承知した。
小林総務課長	他に質問があれば、お願ひしたい。
河合委員	「休日部活動の段階的な地域移行」（令和5～6年度）について、令和7年度現在でどの程度進んでいるか、何%が地域へ移行済みなのか。
廣橋生涯学習室長	部活動地域移行について、全ての運動部の休日は地域移行済み、文化部では吹奏楽部と合唱部の休日が地域移行している。
河合委員	承知した。
八高委員	「誰一人取り残さない教育の推進」について、吉岡町の良い取り組みである。例えば、榛東村で不登校の子が地元の支援場所に行けない場合に、吉岡町の施設や居場所を利用できるのか。そういう地域連携、協力は可能であるのか。
山口教育長	教育長同士では合意しており、町長も「ひばりの家」について他市町村から要請があれば受け入れると快諾している。したがって、榛東村から正式な要請があれば受け入れる意向だが、町外の保護者に対して吉岡町側が積極的に宣伝しているというわけではない。
八高委員	地域連携が可能であるとのこと、安心した。
山口教育長	まずは、相談にのるところからスタートとなる。
八高委員	承知した。
小林総務課長	では、質問コーナーを終え、意見交換に移る。 議題は全部で4点。まず1点目「地域に開かれた学校づくりについて」議論を行う。まず事務局が議題の説明を行い、その後、委員の皆さんに御意見を伺う。
井堀学校教育室長	現在の学校運営協議会は、校長が学校の状況を説明し、委員が質問、校長が答えるという一方的なやり取りが中心になっている。しかし、このままでは協議会の充実や地域に開かれた学校づくりにはつながりにくいと感じている。そ

	のため、議題の内容を練り直すべきか、会議の進め方自体の方向転換が必要かについて意見交換したい。
小林総務課長	単なる確認事項の形態になっている学校運営協議会の現状を別の形で活用したいということである。時間が限られているため、各委員に2・3分ずつ発言してもらう。まず萩原代理から。
萩原職務代理	どうしても学校のこととなると、特にマイナス面に話が偏ってしまいがちである。もっと明るい話題もしたいが、子どもの数が多いことでの問題や課題もある。良い面だけを強調しても、結局同じような方向に行ってしまうので、運営協議会の在り方を検討すべきではないかと思った。
小林総務課長	次に、石田委員。
石田委員	<p>自分は保護者という立場ではないので学校との接点は少ないが、「開かれた学校」は地域とともにあり、地域に支えられた子どもが将来、地域を支えるように成長していくことが理想だと考えている。</p> <p>そのため学校は行事などの情報発信を積極的に行い、保護者だけでなく地域住民もが関心を持てる周知を行って地域の方の参加機会を増やすべきだと提案する。現在は各校のホームページ等で情報発信はあるものの閲覧者が少ないため、より広く伝える工夫が必要である。</p> <p>さらに、地域には様々な経験豊かな人が多く、彼らを指導者として学校の学習に関わらせる場を作ることが望ましい。吉岡町の放課後見守り教室や農作業体験など地域と触れ合う行事は評価しており、今後も継続してほしいと思う。</p>
小林総務課長	では、八高委員。
八高委員	<p>私は「開かれた」を、見られる・触れられる・感じられる状態と理解しているが、学校運営協議会が掲げる「開かれた学校」はイコールとなっていないと感じている。具体的には、保護者が多くて実際に学校に行ってもリモート見学や、保護者同士が互いの顔を知らないため信頼関係が薄く、問題が起きるとお互いが分からなくなるから疑惑が募る。学校側も内部をあまり見せず、行事は形式的で本当の意味での双方向・多角的なコミュニケーションが不足している。</p> <p>コロナ前の学校公開は活気があったが、今はそれが失われており、まずは保護者と学校の距離を縮め、保護者へ開かれた状態になることを優先してほしい。地域に開く1歩手前でつまずいており、外部からのうわさ話やネガティブ情報に対しても、問題を共有して共に解決するような発信があってもよいと考える。</p> <p>結論として、協議会（地域）よりもまず保護者に対しても閉鎖的であることが課題かなと感じている。</p>
小林総務課長	最後に、河合委員。
河合委員	私自身、小3の息子がいて夏休みの学童が非常に過密で子どもが一日中詰め込まれている現状に懸念をもっている。一個人としての意見だが、保育園のお遊戯室を夏休み期間だけ小学生の受入れに使い、給食の提供もできれば保護者の弁当の負担も減らせる。受入れ人数の制限もあるので、卒園児を学年ごとに週替わり（例：今週は1年生、来週は2年生、再来週は3年生）で受け入れれば学童の過密が緩和される。地域の児童館を含めて既存施設の活用が費用面でも合理的で、卒園した園であれば保護者も行き慣れていて送迎しやすい、町として柔軟に検討してほしい。
小林総務課長	4人の委員から意見を頂いた。教育長、町長からも簡潔にお願いする。
山口教育長	<p>学校運営協議会は、地域から学校への批判が強かった時代を受け、自治会長やPTA代表など地域の代表が参加して学校方針を地域と共同で決める仕組みとして作られた組織である。これにより、学校だけの独断ではなく地域を巻き込んだ運営を目指す。</p> <p>今出たような意見が、協議会の場でどんどん出ることで変わっていくのではと率直に思った。今秋から萩原代理が委員になるので、こういう話合いの場で出た意見を協議会に持ち込んでもらうのもよいかと。上（教育長）からの指示</p>

	ではなく、委員からのボトムアップ的な意見交換で少しづつ学校運営に関わってもらえたらしい。
柴崎町長	多様な意見が出てすばらしい総合教育会議だと感じている。 昔は「地域で子どもを育てる」という考えのもと、PTAが主体となって学校行事を運営し、保護者同士の交流が生まれていたが、現在PTAがないのは残念であり、保護者自身が運営することがましいと考えている。河合委員の提案した夏休み中の保育園開放は、開かれた学校づくりの流れへつながる有益な意見であり、町として検討したい。
河合委員	理事長の許可はまだ取っておらず、あくまで私の一意見として述べた旨を理解頂きたい。
小林総務課長	今地域での「開かれた学校づくりについて」出された意見は、総合教育会議や教育委員会、町の施策として重要であり、教育大綱や教育振興基本計画、今後の教育委員会の取り組みに反映していく。時間の都合で個々の意見をここでまとめはしないが、今回の意見を今後の材料としたい。 次に2つ目「町内の生涯学習活動団体の会員減少対策と活性化の方法について」簡潔に生涯学習室長から質問の意図説明を求める。
廣橋生涯学習室長	町の文化協会は任意団体で、文学・美術・音楽・芸能・文化一般などの分野において令和7年4月1日現在で70団体、会員874人が活動している。5年前の令和3年度は81団体、会員1,099人であった。諸事情で団体、会員数が減少している。これらの活動をどう活性化するかについて、委員の皆さんのお見を伺いたい。
小林総務課長	ただ今の説明どおり、生涯学習室が対策を検討するために自由に意見を出してほしい。発言順を1つ繰り上げて、石田委員からお願ひする。
石田委員	会員減少は高齢化やライフスタイルの多様化で新規加入が進まないことが主因と考えられる。吉岡町は人口が増え、若い世代や子育て世帯が多く時間的余裕がないため、団体側が活動の魅力を分かりやすく伝え、参加しやすくする工夫が必要である。具体策として、公民館等へのチラシ・ポスター掲示や、若年層向けにSNSやLINEの活用、親子で参加できるプログラムの導入があげられる。さらに、毎年同じ内容のマンネリ化を避けるため、各団体が活動内容を工夫・変更することが望ましい。
小林総務課長	次に八高委員。
八高委員	以前、吉岡町の手話サークルに手話を取り入れたダンスの指導を提案したが、できない理由をいろいろ並べられて断られた。私は子どもに手話を教えるよい機会だと思っていたので受け入れてもらえなかつたことに驚いた。今回の生涯学習の団体についても、本当に人を増やしたいのか伝わりにくく感じている。 例えば放課後見守り教室では、昭和と令和で子どもへの声かけが違うなど世代間ギャップが大きい。若者と交流して「元気になる」だけでは不十分で、誰が主体か、目標は何か、団体をどう魅力的にするかという明確なテーマがないと人は集まらない。各々の時間も有限だから「気軽に来てね」ではなく、それぞれの団体が本当につなげたいことを工夫して示す必要があると思う。
小林総務課長	続いて河合委員。
河合委員	簡潔に言うと、SNSでの発信はぜひ行うべきで、吉岡町のチャンネルが既にあるなら更にPRを進めるのはどうか。 従来の誘い方より、子どもと一緒にICTを活用して作ったコンテンツをチャンネルで発信した方が、若年層や65歳以上の退職世代に響くと思う。刺さらなければ伝わらないので、まずはその方向を1歩進めてほしい。
小林総務課長	次に萩原代理。
萩原職務代理	団体の年齢層は不明だが、若い住民を取り込むには曜日や時間を変えた企画が有効かと。例えば夜に集まって吉岡町を歩く「夜ウォーキング」を行えば、夜間の危険箇所や街灯の少なさといった地域課題に気づけると同時に、自治

	会・地区間のつながりを作れる。昼は子どもと歩くなどターゲットや時間帯を変えた発信を増やせば、参加へのハードルが下がり関係性が広がる。
小林総務課長	では、教育長、町長それぞれコメントお願ひする。
山口教育長	すばらしい発想が出て、提示された内容の是非ではなく、様々な意見から工夫の余地が見えたことに感謝している。
柴崎町長	最近、吉中の生徒が地域ボランティアに参加するようになり、それがきっかけとなって地域活動が広がってきていると感じる。漆原東自治会の八木節には子どもも参加しておりすばらしいことで、将来につながることを期待している。
小林総務課長	<p>生涯学習活動団体の会員減少対策として、まずその団体が「会員を増やしたい」と本気で考えているかが重要で、内部に募集意欲がないなら行政が促しても加入は進まない。若者に響く工夫がないことも参加不足の大きな要因である。</p> <p>対策は二軸で考えるべきで、（1）既存団体を拡充して会員増を図る。その前提として団体自体の意識付けが必要。（2）既存団体での増員が難しい場合は、自主グループなどの新しい団体を立ち上げる方向に重心を移し、新規団体の数を増やす。PR手段としてはSNS活用や教育委員会のホームページ等で活動報告・募集情報を発信することが有効である。</p> <p>吉中生のボランティアなどで若者が地域活動へのつながりも広がっている。これらを参考に方針を検討してほしい。</p>
八高委員	文化協会の規約や制限が厳しく、参加しづらい状況である。例えば営利団体は最初から入れないなどの例があり、地域のために活動したい団体がいるにもかかわらず参加が妨げられている。参加者を本当に増やしたいなら、規約を見直してほしい。
小林総務課長	その辺りも今後検討課題としてお願ひしたい。
廣橋生涯学習室長	多くの御意見、感謝申し上げる。
小林総務課長	議題3つ目について、「芸術・文化活動を中学生段階で親しんだ生徒が、卒業後、再び町内で活動を始められるような機会の創設を図りたいと考えているが、きっかけをどのように作っていけばいい」についてまず提案説明を。
廣橋生涯学習室長	現在、吉中生が吹奏楽をはじめ文化面で西関東大会に出場するなど活躍している。これを継続させるため、彼らが高校進学や就職の後に町へ戻ってきた際に再び活動できるような機会を整えたい。どのようなきっかけ作りが有効か悩んでいるため議題にあげた。
小林総務課長	では、八高委員からお願ひする。
八高委員	<p>理想は子どもたちが自主的に自然発的に始めること。自主性のある組織でなければ人は巻き込めない。ただし行政やこちらで準備するなら、活動のテーマや目標（楽しむのか全国を目指すのか）を明確にし、それに沿った参加費や謝礼、規約や運営体制をきちんと整えることが必要で、組織自体が魅力的であることを発信するべきだと考える。</p> <p>講師や目標設定は重要で、能力ある人材を町外・県外から入れることも検討すべき。過保護に守りすぎず、行政は子どもたちのやる気を見守る立場が望ましい。</p> <p>また、競技人口減少に伴う地域制約（県外のチームに所属させない、県内競技人口を確保するというもの）の話を聞き、有望な子の将来を狭める恐れがあり、その将来性まで見据えた議論が必要であると考える。</p>
小林総務課長	では、河合委員。
河合委員	吉岡町出身者の作品を、ジョイフルホンダのような場でテーマを決めて展示する仕組みを提案する。うちの保育園もジョイフルと相談中で、展示は地元出身者のPRや仕事につながる可能性もある。更に小中学生に作品を見せ、グーグ

	ルフォーム等で評価投票に参加することで「見るだけで終わる」状況を防ぎ、次世代が町へ戻って作品を出すなど長期的に関係がつながっていくとよい。
小林総務課長	続いて、萩原代理。
萩原職務代理	町の活動を動画で記録・発信すれば、結婚や仕事で吉岡町を離れた人が町の現状を懐かしく具体的に知れて、子育て先として再検討しやすくなる。吉岡町を検索して「こんなことをやっていた」と分かれば子どもにも伝えられ、帰郷や移住のきっかけを作れる。こうして離れた人と吉岡町をつなぎ直せるのでは。
小林総務課長	大人になった子どもたちの当時の状況でなく、今の吉岡町の現状で吉岡町はこんなところだと伝えていくことであるか。
萩原職務代理	吹奏楽部などの活動を子どもたちが毎年の映像（演奏や出場記録）として残すと、年ごとの変化や自分がその年にいたことが分かり懐かしさを感じられる。たとえ10年後に県外へ出ても、吉岡町の子どもたちが今も活動を続いている様子が伝われば、ふるさとに戻ってきたいと思うきっかけになる。
小林総務課長	最後に、石田委員。
石田委員	中学校卒後も生徒との接点を絶やさず、継続してつながる工夫が必要である。具体策として中学卒業時に町の文化団体の連絡先や活動内容をまとめた案内冊子を一人一人に配り、帰郷した際に参加や関心につなげられるようにする。更にLINEやSNSを活用して情報発信や工夫ができるとよい。
小林総務課長	では、教育長、町長も簡潔にお願いする。
山口教育長	開かれた行政について自分なりに考えてきたが、今回多くの具体的なヒントを得てその重要性を再認識した。これらの発想を取り入れて今後の方針を検討することで、更に開かれた行政に進めるとともに、室長が抱える課題の解決のきっかけになると感じている。感謝申し上げる。
柴崎町長	私が生涯学習に携わり、平成8年度に音響の良い施設をということで文化センターを開館・運営した。県内に誇れる施設としてもっと活用したいという思いがあり、町長となった今、音響系施設の利用が不足していると感じている。吹奏楽部が中学卒業で活動をやめてしまうと町の宝が失われるため、継続してくれる人がいれば文化センターを開放して支援したい。皆さんのアイデアを生かして担当者が前に進めてくれることを期待する。
小林総務課長	3つ目の議題について多様な声を頂いた。活動報告やSNSなどで吉岡町の取組をまず見てもらうことが重要である。 では、最後の議題、「教育関係施設（学校関係施設、文化センター、体育関係施設等）の老朽化が進んでいる。町財政的にも厳しい中で、建て替えや改修等を含めて、今後どのように優先順位を考えていくべきか」について、事務局長から説明を求める。
米沢局長	施設の老朽化に伴い、改修・整備の優先順位をどうするか意見を求める。 事務局は義務教育関連を最優先と考えているが、その結果、社会教育（生涯学習）や文化・スポーツ分野が軽視される懸念があるため、これらも含めて意見交換したい。
小林総務課長	提案理由を聞き、実際には各委員の立場から見解が異なると思われる所以、それぞれ個人の意見としてどのように考えるか述べてほしい。 まず河合委員からお願いする。
河合委員	個人的意見として、まず学校教育を優先した上で、もし予算に余裕があれば地域の集まる場や児童館の施設整備をしてほしい。地域住民や今後転入される人々にとって有益なので、御検討をお願いしたい。
小林総務課長	では、萩原代理。
萩原職務代理	学校のエアコン整備などの話だけでなく、自治会の集会所等の整備も検討してほしい。施設によってはきれいなところもあるが、床の劣化などが目立つ場所も多く、改修すれば子どもたちを集めて使えるようになる。各自治会施設の改修も御検討いただきたい。

小林総務課長	続いて石田委員。
石田委員	人命に関わる構造的・インフラ的な課題を最優先すべきで、教育委員会の立場からは子どもの視点で、猛暑が学習に影響を与えるため体育館の冷房導入をまず検討してほしい。加えて、体育館は災害時の避難所にもなるため、夏季にエアコンがないと避難者が過ごすのが困難になるので、冷房設備の整備は重要である。
小林総務課長	最後に八高委員。
八高委員	石田委員の意見と同じく、災害時の避難所や世代間の公平性を考えると、誰にとっても分かりやすく緊急時に集まりやすい学校の体育館を優先すべきだ。体育館の冷房などエアコン設備や避難所としての整備を進めるべきである。 また、地域の集会所に関して、例えば上毛かるたの練習会をするにも狭くて4年生以上しか集まれない（1年生から参加できない現状等）があり、集会所の整備も必要と考えるが、一番は災害時かと思う。
小林総務課長	では、教育長、町長からもお願いする。
山口教育長	費用がかかるため優先順位をどう付けるかが問題だが、その優先順位を考えるための視点を得られたことに感謝する。
柴崎町長	自分は最優先は教育施設、学校を優先させてもらってその中で順次、地域の方にと。それを基本としてやっている。
小林総務課長	御意見を頂き感謝する。 まず生命に関わることを最優先としつつ、学校や学習への影響を避ける観点から、体育館を災害時の避難場所や自治会の集会施設として整備する必要があるとの意見が出た。学校のエアコン整備は予算の関係で一斉には進められず、順次対応していく方針である。 自治会の集会施設については総務課の補助金制度があり、地元自治会がエアコン設置や修理を行えば補助を受けられるので、地域で提案し施設整備等を踏まえて検討していただきたい。 今回の意見交換は有意義であったと考える。次期教育大綱・教育振興基本計画は令和9年度からの5年間の町の方向性を決める重要な計画になるため、各委員は「どんな町にしたいか」をイメージしつつ、計画に基づき教育委員会として何ができるかを念頭に活動していただきたい。 以上をもって意見交換を終了し、議事を柴崎町長に返す。
柴崎町長	議事の円滑な進行と率直な意見交換に感謝する。 参加者の意見を事務局が受け止め、大綱策定や教育行政に生かしていきたい。吉岡町をよりよくするため今後も各方面からの力添えをお願いし議事を終了する。
小林総務課長	以上で令和7年第1回総合教育会議を閉会する。